

令和8年度 校内研究構想図

令和8年度 板橋区立新河岸小学校「自分の考えをもち言葉で表現できる子を育成する指導の工夫」

学校教育目標

よく考える子ども ねばり強く取り組む子ども 仲よく助け合う子ども 明るく元気な子ども

社会的背景より

- ・少子高齢化による生産年齢人口の減少
- ・人工知能（AI）の飛躍的進化等によるグローバル化の進展と絶え間ない技術革新
- ・「生きる力」を育むための「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進【現行学習指導要領より】

児童の実態

- input** ・語彙が少なく、話を自分ごととして聞けない。
・最後まで聞けない。・問われている意味がわからない。
- think** ・粘り強く考えない。・分からなくても考えない。
- output** ・自分の考えをもてない、もてても文章で表現できない。・自信がなく全体で発表できない。・既習の漢字を使っていない。

板橋区の教育課題

- ・「板橋区授業スタンダード」「板橋区授業スタンダードS」の徹底（めあてや協働的な学びの大切さ、自己選択、自己決定、自己認識）
- ・「読み解く力」の育成（INPUT THINK OUTPUT）
- ・「一人一台端末」の活用（個別最適な学び 協働的な学び）
- ・「総合的な学習の時間」の充実（SDGs STEAM GIGA）

教師の願い

- ・文字、文章を単なる音として捉えるのではなく、意味や文と文とのつながりを理解しながら読めるようになってほしい。
- ・言葉のもつ良さを感じ、豊富な語彙を獲得してほしい。
- ・文章に対する苦手意識を無くしてほしい。
- ・学習課題に丁寧に取り組もうとする。
- ・自分の思いや考えを伝えられる。

研究主題

自分の考えをもち言葉で表現できる子を育成する指導の工夫

～「板橋区授業スタンダード新河岸バージョン」を通して～

<目指す児童像>

- 低 興味関心をもち、自分ごととして友達や先生の話聞き、聞いたことを理解して考えを伝えたりすることができる児童。
- 中 聞いたり、読んだりしたことや収集した情報を整理し、自分の考えを伝えることができる児童。
- 高 それぞれの教科で学んだことを結び付けたり自分たちの生活に関連付けたりすることで自分ごととして捉えることにより、自分の考えをもち表現できる児童。

研究の内容・方法

【読み解く力をつけるために】

令和7年度からの取り組み

- ・LUT ・朝学習 ・板橋区授業スタンダード
- ・教員の指導力向上のためのOJTチャットカフェ
- ・全教員が研究授業に取り組む。

令和8年度新たに

- ・モジュール（朝学習）漢字を読める、書けるようにする。

- ・ハンドサインや「反応しよう」の掲示で、自己意見を示し、授業に参加するという意識をもたせる。
- ・ペア学習で友達の考えをヒントに考えをもてる、広げることができるようにする。
- ・ヒントカードで、考えをもてる、表現できるようにする。
- ・「言葉の広場」を単元の初めに行い、語彙を増やす。

【評価、変容の見取り】

- ・国語と算数のEXテストの前期・後期で比較する。
- ・テストがない教科については、課題に対する取り組み前後の伸びで見取る。（昨年度同様）